



キリスト教世界のこころと病い・からだ・生活に寄り添うジャーナル

# 聖書と精神医療

2023年 Vol.42

2023年12月25日

[年1回発行]

聖書と精神医療研究会

## 目次

次世代を育てる信仰の力	上山 要・・ 7
信仰継承のための五つの提言 -クリスチャンホーム、学生宣教、 父親としての経験から-	塚本 良樹・・ 19
「信仰の継承」を目指した私の試み	杉山 元夫・・ 33
真理は私を自由にする -こどもの側から見た信仰継承-	塚田 真琴子・・ 46
現代社会に見る心の不安の認識論的根源と聖書が示す対応策	千葉 正樹・・ 57
親から子への信仰継承 -申命記 6 章を通して -	浜田 献・・ 74
創世記に見る夫婦の始まり	日向 陽一・・ 82
親の離婚がこどもに及ぼす影響	笹岡 靖・・ 90
「聖書と精神医療研究会」設立趣意書	104
「聖書と精神医療研究会」規約	105
ジャーナルのバックナンバーと関連出版物	106
編集後記	115

## はじめに

聖書と精神医療研究会の2023年度のテーマは、「次世代を育てる家庭の力」です。2022年7月に起こった安倍信三元総理銃撃事件が契機となって、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）やエホバの証人などの宗教団体における「宗教二世問題」が関心を集めました。信仰継承は、キリスト者にとっても大きな課題ですが、このような他団体における状況は、ひるがえって、キリスト教会にとっても、自らの姿を点検し、確認するきっかけとなっています。本号では、キリスト者家庭の子どもが抱える様々な心の問題、さらには信仰の継承の課題を含めて考察したいと考えました。キリスト者家庭が何らかの機能不全を起こし、こどもたちの健全な心身の発育に影響が及んでいるおそれはないか、などの観点に光を当て、心理的、精神的、霊的な面について考察できないかと考えました。

また、以上の他にも、キリスト者家庭を始めとして、社会や家庭、個人のあり方に影響を及ぼしうる変化として、本年6月には、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」（「LGBT 理解増進法」）が成立しました。この法律制定の背景には、基本的人権、性のあり方や差別など、社会の根本にかかわる課題がある一方で、キリスト教信仰からは、「神のかたち」（創世記 1:27）をどのように考えるかという神学的、教義的な問題ともつながっています。

以上のようなキリスト者家庭に対する影響についても、本号においては視野に含めて、投稿の募集をいたしました。しかし、結果的に、ジェンダーの問題について、本号で取り上げてくださる著者はいませんでした。そのことから、ジェンダーの問題について当研究会では、引き続き検討課題とすることいたしました。

巻頭メッセージにおいて、幕張聖書バプテスト教会の上山要氏は、コロナ禍をとおして、社会や人間関係にどのような影響が及んだかについて触

れ、それに明らかにされたのかを示すと共に、主イエスが弟子たちに対して語られたことばとダビデがソロモンに遺した言葉と事業を踏まえて、次世代を育てる信仰の力について考察しています。

「キリスト者学生会(KGK)」の主事として大学生を対象とした伝道活動に従事する塚本良樹氏は、ご本人が父親であると共に、キリスト者の両親の元に育てられた経歴があります。そのような経験を踏まえて、こどもへの信仰継承のために家庭、特に親にできることについて提言しています。塚本氏は、信仰継承に現在進行形で取り組んでいる一人のキリスト者として、自分の子が成長し、やがてこの投稿を読めるような年齢になったときに、どのような返答があるのだろうかと思ひめぐらしつつ書いた父親としての決意表明でもあります。

杉山元夫氏は、キリスト者の父親、高校の教師、大学の講師、そして教会学校の先生として、長年にわたって次世代を育てる働きに関わってこられました。そのような働きの中で、杉山氏は、信仰継承を阻もうとする様々な課題と向き合ってきました。本稿では、そのような信仰の戦いについて紹介いただきました。杉山氏からは、本号で掲載したよりもはるかに多くの内容が盛り込まれた原稿を頂きましたが、ここでは、本ジャーナルの主旨に沿った部分を中心として掲載させていただくこととしました。

塚田真琴子氏は、キリスト者家庭の長女として生まれてから今に至るまでの人生と信仰の歩みについて、証ししてくださいました。塚田氏は、人生に起こったチャレンジを通る中で、聖書の真理こそが本当の自分へと導くことに目が開かれた体験を語っています。その中で、こどもの側から見た信仰継承について感想を述べています。最も個別的なことこそ、最も普遍的なことであると言われます。個人的な証しを通して、その中にある普遍的な真理が更に読者をも自由にすることを期待します。

アメリカにおいて「キリスト者医科・歯科連盟」のエリア・ディレクターの他、地域教会の専任スタッフとして活躍している千葉正樹氏は、ご自分

の家族の中に突然、強迫性障害が起こるというできごとを経験します。このことをきっかけとして、千葉氏は、この病態について関心を向けるようになり、現代社会における過度の不安の広がりとは無関係ではないことと考え至ります。氏は、現代社会における不安について、思想的に、また、神学的に考察すると共に、聖書的な観点から不安に対する対応策を提言しています。

清水聖書バプテスト教会牧師の浜田献氏は、子育て奮闘中の現役の父親です。教会奉仕のあわただしい日々の中、氏自身が、今一度聖書における基本的な子育てについての教えと向き合う必要を覚えていたことから、次世代への信仰の継承のベースである申命記6章について再考し、解き明かしています。

夫婦カウンセラーである日向陽一氏は、次世代にとって家庭の基盤が夫婦関係にあることを強調します。家族や夫婦のあり方が混乱している社会情勢にあって、氏は、聖書の教えを理解し、それを実生活に適用していくことこそが対処法であると考え、創世記から夫婦のあり方について語っています。

成田キリスト教会の笹岡靖は、近年家庭の多様化が進む中、三組の夫婦のうち一組が離婚するという現代の日本社会の状況を踏まえて、親の離婚によって子どもにどのような影響が及ぶのかという点について、文献を踏まえて検討しています。また、教会の離婚に対する姿勢についても考察しています。

各方面から投稿いただき、第42号が出来上がりました。今年の5月には、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になりました。コロナ禍で失ったものが少しずつ回復していることを感じる中、次世代が輝くための方策について何らかの指針になればと願いつつ、本号をお届けいたします。